

連合長崎第34回地方委員会開催

復興・再生に全力を尽くし、 「働くことを軸とする安心社会」につなげよう！

連合長崎は、10月20日（木）13時30分からセントヒル長崎で第34回地方委員会を開催しました。岩永副会長の開会あいさつのなかで、東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福を祈るため参加者全員で黙とうを行いました。その後、小石会長があいさつを行い、5つの課題を提起しました。地方委員会は、小石会長のあいさつのあと、来賓の方々から

激励の挨拶を受け、報告事項（一般経過報告・2011年度会計、会計監査報告・2011春季生活闘争総括・2011年度選挙総括）が満場一致で承認され、第1号議案から第4号議案の各議案、スローガン、地方委員会アピールが承認され、田端副会長の閉会あいさつのあと小石会長の団結ガンバローで第34回地方委員会は閉会しました。



団結ガンバロー



参加者全員で黙とう



フォトコンテスト表彰



■東日本大震災について

連合が行いました、義援金活動やボランティア派遣等に対して、皆様方から大変なご支援を戴いたことについて改めて感謝申し上げます。

被災地の復旧・復興という場合に、どうしても避けて通れない課題は、原子力エネルギーとどう向き合うかです。連合は先の定期大会においてこれまでのエネルギー政策について総点検・見直しを行うことを決定しました。その視点は、総合的・合理的・客観的なデータに基づき議論すること、加えて国民の理解・納得という観点や「国民合意」のあり方にも十分留意しつつ、短期・中長期に分けた冷静な議論を行っていくということです。更には、大型の自然災害が不可避なわが国においては、原発事故が起こりえること、ひとたび事故が起これば、人々の生活や健康、広範な環境に甚大な被害もたらす可能性があることを現実のものとして知った今、わが国は、原子力エネルギーに代わるエネルギー源の確保等を前提に、中長期的には原子力エネルギーに対する依存度を低減していき、最終的には原子力エネルギーに依存しない社会を目指すということです。連合はこれらの考え方に沿ってこれから具体的見直し検討を進めていきます。この問題は国の在り様に大きく影響するものであり、我々としても積極的に議論に参加していく必要があります。

■政治について

一昨年8月30日、高揚感の中で新たな国づくり、社会づくりへ踏み出してから2年が過ぎ、政権交代ならではの出来事があった反面、これまでの自民党政治の負の遺産やネジレ国会、更には民主党の未熟さもあ

って、多くの失望感を感じております。

しかし、約半世紀に渡り築かれてきた保守政治の膿、残滓を取り去り、新たな政治体制を構築することが如何に難しいことかというところでもあり、現在はまだ、私たちが求めた社会構造の変換への入り口に立っているに過ぎないと捉えておくべきだと思います。

無論、震災以前から日本社会が直面してきた少子超高齢化・人口減少、非正規労働者の増大と雇用の二極化、貧困増大、危機的な国家財政等の課題を始め内政・外交共に課題が山積しており、これらに対しても的確かつ迅速な対応が求められています。

民主党が次期総選挙で勝利し、引き続き政権を担い得るかどうかは、野田政権に懸かっています。今回がラストチャンスであり、大いに期待するところです。

本年春の統一地方自治体選挙では、先の県知事選挙や参議院選挙を通じて我々の基盤の弱さを痛感させられたことを踏まえ、地域における基盤の拡大と地方分権への対応等から地方議会での勢力の伸張は大変重要であるとの観点から戦いを進めました。

結果は、民主党への逆風が吹き更には大震災後の選挙自粛ムードの中で、一定の成果を納めることができたかと判断します。この間の組合員、家族、退職者の会等々の皆様のご奮闘に敬意を表すと共に、感謝申し上げます。

■2011並びに2012春季生活闘争について

2011春季生活闘争は、大手組合の山場での大震災の発生、地場中小の交渉集中時期には統一地方選への対応等あり、十分な成果を納めることができませんでした。

2012春季生活闘争の具体的な方針は明年春の委員会で提起させて頂きませんが、マクロ的に申し上げますと今日の経済情勢は、デフレの進行やヨーロッパの財政危機、アメリカ・アジア経済の停滞感からの円高・株安、更にはタイの大洪水の長期化による日本の製造業への影響などからの日本経済も先行き不安感が存在しています。

しかしながら労働者の生活もまた可処分所得の減少は厳しく年収200万円以下労働者が実に1,000万人に超える状況であり、貧困が社会問題化していることは

周知のとおりです。

野田総理は、「分厚い中間層の存在が経済発展と社会安定の基盤」と言及しました。格差が固定化しつつある中で、中間層からこぼれた人達、市場原理主義の下、企業の短期利益追求の犠牲とも言えるような形で痛んだ非正規労働者の雇用と生活の安定をめざし、健全な環境を作る必要があり、その大きな視点変更が今年の春季生活闘争であったし、明年の2012春季生活闘争であると認識します。そういう観点からも就業者の8割が賃金を得て生活をしているこの日本においては、労働運動が果たさなければならない役割と責任は極めて大きいものがあります。

■組織拡大について

組織拡大が喫緊の課題であることは、全体が共有できるものと認識します。非正規労働者が急増し、その労働環境は極めて厳しい状況にある中でそこに手を差し伸べ、そして我々の輪の中に入れて頂くことが重要になっています。



〈議長団〉
左…自動車総連 本田委員
右…情報労連 中川委員

我々は、今回の大震災を通じ、支え合い助け合うことの大切さ、人と人との繋がり、絆の大切さを学びました。更には、一人一人は微力ですが組織として結束して動けば大きな力となることも学びました。まさに労働組合の原点はそこにあると思います。

また昨年度も申し上げましたとおり、未組織労働者が労働現場の8割を占めている中であっては、常に新たな労働組合がそこにできる可能性への危機意識を含め共有しつつ、今後は今まで以上に運動のウイングをより広げ、社会に幅広く訴える行動が求められていることを強く訴えるものであります。

■核兵器廃絶運動について

我々は、被爆60周年の2005年から原水禁、核禁会議の皆さんとの共同行動を積み上げてまいりましたが、その共通項は核兵器廃絶と被爆者援護の2点です。しかし今回の福島原発事故は、原子力とどう向き合うかが改めて問われるものとなりました。原水禁においては、開会総会のあり方を含め大会のあり方への論議を深める動きもあるように聞いています。

我々は、両団体のこれからの議論を注視するところですが、強い思いは両団体の長い運動の歴史の上に立って、環境的には共同開催が厳しい中でも互いに乗り越えてきたことを重く受け止め、現在の三団体の枠組みを何としても踏襲できるよう努力することです。

2015年のNPT再検討会議は、核兵器禁止条約が大きな焦点になっていくでしょう。その場合、被爆国日本からの発信は大きな重みを持つものであることからすれば、全ての団体、NPOが一丸となって対応することが重要であると考えます。

質 問 者



上田委員（情報労連）



黒崎委員（自治労）

来賓挨拶



民主党県連 渡辺幹事長



社民党県連 吉村代表



連合本部寺田総合局長

新任挨拶



若杉副会長 (JP労組)



芳川副事務局長 (電力総連)

退任挨拶



岩永前副会長 (JP労組)

2012年度連合長崎執行体制・事務局担当業務

役 職		氏 名	組 織 名	産別担当	地域担当
会 長	専 従	小 石 隆	情報労連	全般	全般
副 会 長	非専従	近 藤 富 彦	自治労	官公	大東
		江 口 茂 広	基幹労連	金属	佐世保
		渡 邊 昭 吉	UIゼンセン同盟	製造・商業・サービス	諫早・島原
		若 杉 忠 幸	J P 労組	交通・運輸	長崎
		田 端 康 弘	電力総連	通信・電力・エネルギー	壱岐・対馬
		宮 崎 辰 弥	情報労連	通信・電力・エネルギー	五島・上五島
事務局長	専 従	森 光 一	基幹労連	全般	全般
副事務局長	専 従	佐 竹 明 彦	自治労	製造・商業・サービス	諫早・島原
		松 井 利 明	自治労	官公	大東・壱岐・対馬
		浦 本 和 明	基幹労連	金属	佐世保
		芳 川 孝太郎	電力総連	通信・電力・エネルギー	五島・上五島
		入 江 良 美	交通労連	交通・運輸	長崎
執 行 委 員	非専従	松 尾 悟	サービス・流通連合		
		関 山 明 彦	自動車総連		
		太 田 清	運輸労連		
		益 満 政 彦	電機連合		
		上 川 剛 史	日教組		
		藤 澤 恒 昌	全駐労		
		野 原 秀 昭	交通労連		
		藤 川 直 樹	海員組合		
		富 永 一 夫	都市交		
		山 田 充 哉	自治労連		
		田 島 広 明	私鉄総連		
		江 副 敏 彦	J R 連合		
		寺 田 末 人	全自交労連		
		嶋 三 郎	国公総連		
		岩 永 財	全国ガス		
		嵩 靖 文	長崎私交通		
		峰 義 彦	長崎地協		
		菊 永 昌 和	佐世保地協		
		東 隆 司	諫早地協		
		岩 口 修	大東地協		
松 本 久 美子	自治労				
森 優 子	J P 労組				
会 計 監 査	非専従	太 田 吉 弘	日教組		
		川 田 隆 往	電機連合		
		倉 田 昌 明	都市交		



第10回フォトコンテスト入賞作品の紹介



2011年9月9日に長崎市で第10回フォトコンテストの審査を行い、最優秀賞に選ばれた松尾 泉(自治労:長崎県職連合OB)さんの表彰を連合長崎第34回地方委員会でいたしました。また、地方委員会会場には、入賞者の皆さんの作品も展示しました。

最優秀賞



「アッチッチッ(精霊流し)」

松尾 泉さん
(長崎県職連合OB)

優秀賞



「癒し」
湯浅 慎也さん
(三菱重工労組)



「桜島」

鹿山 紋さん
(三菱重工労組:家族)

連合会長賞



「ごきげんな兄弟」

矢津 充浩さん
(佐世保重工労組OB)

花・植物・生物



「一致団結」

福田 尚文さん
(三菱重工労組)

人物



「おいしいよー」
松井 節子さん
(佐世保重工労組OB)

風景



「明日への旅立ち」

下舞 修さん
(長崎県職連合)

その他



「疾走」

西中須 盈さん
(全国一般)

入 選



「朝光(ちょうこう)」

高島 勝由さん
(佐世保重工労組OB)



「巨大橋のひととき」

笹野 基伸さん
(佐世保重工労組OB)



「祭りの笛」

山口 哲男さん
(タクシー労組・観光支部OB)



「桜島」

鹿山 勝希さん
(三菱重工労組・家族)



「流鎗馬」

森田 正巳さん
(三菱重工労組OB)



「夕焼け空の下」

神野 直樹さん
(三菱重工労組)



「美味しそう ちょうだい」

西野 彰晃さん
(佐世保重工労組OB)



「よさこいキャイン」

楠本 邦博さん
(大村市職OB)



「補修」

長浦 敏雄さん
(佐世保重工労組OB)



「午後のひととき」

福島 雅行さん
(佐世保市職)



「雨上がり」
草野 美和さん
(後藤運輸労組)



「ふるさとの空」
川場 愛さん
(後藤運輸労組)



「私、上手いでしょ」
土手奈津子さん
(三菱重工労組・家族)



「ちよつとひと休み」
楠本 咲子さん
(大村市職・家族)

「連合東日本災害対策救援本部」としての活動を終了

ご協力ありがとうございました。

連合は、3月11日に発生した東日本大震災に対応するため、3月14日に、「連合災害対策救援本部」を設置し、以降半年間余りの取り組みをおこなってきましたが、「連合・災害対策救援本部」としての活動は、第12回定期大会（10月4日～5日）をもって終了し、以降は通常の執行活動に引き継ぐこととなりました。

震災から半年を経過し、被災地の状況も少しずつ変化しています。当初の「緊急救援ニーズ」への対応から、仮設住宅等への入居が進む中で、被災者の生活再建を支援することや、地元企業の再建と雇用の場を確

保すること等、また、放射能汚染による被害除去も含めて、生活・雇用・産業などのトータルな再建・再生にむけて、政府・自治体、被災者、事業者、労働組合などの立場からの支援継続が求められています。

今後は、本格的な復興・再生にむけた政策制度の実現のため、2011年度第3次補正予算、雇用・就労対策、福島第一原子力発電所の事故の対応などを検証し、政府が責任持って政策を実行することを求めていきます。

連合会長メッセージ

第12回定期大会をもって、「連合・災害対策救援本部」の半年あまり続いた取り組みを終えることとなりました。皆さまには、救援物資の提供、カンパ活動、救援ボランティア派遣など様々なかたちで、ご参加・ご協力いただきました。心より感謝と敬意を表します。ありがとうございました。

私が最初に被災地に入ったのは、4月2日のことでした。津波に襲われた港、荒涼としたガレキの山、家の土台だけが点々と残る街並みが延々と続き、そこには多くの人たちが日々の暮らしを送っていたことを思うと、言葉を失い言い難い感情で胸がいっぱいになりました。他方で、悲しみに包まれながらも、「希望」を失わずに、大津波があった日も、次の日もそして次の日も今日この時も、困難に耐えながら、それを克服し乗り越えようと毎日を生きている多くの被災者に、私たちは逆に励まされたのです。

「被災地の復旧・復興なくして、日本の再生はない」。被災地の人々が、一日も早く普通の生活を取り戻すことこそが、不幸にも命を落とされた人たちの魂を鎮めることになると思います。現在でも災害と原発事故との闘いは続いています。連合は、被災地の復旧・復興・再生を全力で支えていく。定期大会では、そのことが私たちに与えられた第一の課題であることを、構成組織、地方連合会、そして連携する諸団体の皆さんとともに確認し合うことができました。

一人ひとりには微力ですが組織として結束して動けば大きな力となる、まさに労働運動の本質を再確認しました。「災害対策救援本部」としての活動は一区切りをつけますが、今後とも、政策制度実現の取り組みと、被災地・被災者が必要とするニーズに基づきこれからも連合の総合力・組織力を発揮できる取り組みを推進していくことといたします。

連合は、引き続き、「復興と再生に全力を尽くし、『働くことを軸とする安心社会』につなげよう」のスローガンのもと邁進してまいります。

2011年10月7日
古賀 伸明

吉田氏(連合長崎推薦)が無投票当選(時津町長選)!

連合長崎は、10月20日(木)に開催した2012年度第1回執行委員会で、任期満了に伴う時津町長選に出馬する、時津町前副町長「吉田義徳氏(64歳)」の推薦を決定し、同日セントヒル長崎で、連合長崎および連合長崎地協と政策協定を締結しまし

た。10月25日告示の時津町長選は、連合長崎が推薦した吉田義徳氏(64)(無所属)以外に立候補の届け出はなく、吉田氏が無投票当選を果たしました。



連合長崎と政策協定を締結



連合長崎地協と政策協定を締結



小石会長と峰議長と固い握手

連合佐賀・長崎

青年・女性委員会合同

2011年10月15日(土)～16日(日)、佐世保市の「ホテルローレイ」において、「ユース21」交流集会を開催し、連合佐賀・長崎より計139名(男性:84名、女性:55名)、うち連合長崎より38名(男性:21名、女性:17名)が参加しました。

本集会は、産別の枠を超えた交流・学習により労働運動を担う青年・女性リーダーの育成を目的に毎年連合佐賀にて開催していますが、本年度は初めて、連合佐賀・長崎の青年・女性委員会合同により開催しました。

1日目は、富士社会教育センターの大江一郎さんを講師に招き、「なぜ今労働組合か?」というテーマで講演をいただきました。講演では、「労働組合がなかったらどうなるか?」といった実例や、コミュニケーションの手法について、楽しくわかりやすくお話しいただきました。

講演を聞いた後は11班に分かれ、「職場のコミュ

「ユース21交流集会」

ニケーション」や「ユース活動」など各班でテーマを定め、分散会を行いました。各職場・組織の具体的な体験例の紹介や問題提起を行いながら、意見交換を進めました。

2日目は、連合長崎青年・女性委員会より「平和活動の取り組みについて」紹介を行いました。まずは、第14代高校生平和大使より浦川祐可さん、山口紗喜さんの2名を招き、高校生平和大使の活動について報告をいただきました。続いて連合長崎青年・女性委員会より、連合長崎の平和行動について紹介を行いました。

その後、各班より、1日目の分散会の報告を行いました。報告では様々な意見が出され、諸課題解決に向けてどう取り組むべきか、参加者全員で共有することができました。

最後に参加者全員および分散会毎の記念撮影を行い、2日間の集会を締めくくりました。



1～6班の仲間



7～11班の仲間

『人権フィールドワーク』開催

2011年度のフィールドワークは「NPO法人長崎人権研究所 阿南重幸氏」を講師に迎え、10月1日(土)に大村市で19名の参加者によってキリシタンの迫害を中心に江戸時代の部落差別等について学びました。

当日は、長崎空港の入口に建立されている天正遣欧少年使節之像から胴塚・首塚に移動し、その後、放虎原殉教地跡、大村小学校、針尾トンネル工場から鈴田牢跡をフィールドワークしました。

胴塚・首塚では、キリシタンが処刑後に復活することを恐れ、斬首された首と胴体を1キロほど離れ

たところに埋葬していたこと。放虎原殉教地跡では131名のキリシタンが打ち首となったことなど、大村藩でのキリシタンの迫害について学ぶことが出来ました。

また、針尾トンネル工場では、たくさんの朝鮮人労務者が大村大空襲によって犠牲になられたことも知りました。フィールドワークに参加された皆さんは、真剣な表情で講師の話を聞かれています。

来年もフィールドワークを行う予定ですので、郷土の問題について興味がある方は是非参加してください。



鈴田牢跡



天正遣欧少年使節之像

働く人の暮らしを守る制度です。

長崎県 最低賃金が改定されました。

646円

時間額

※特定の産業には特定(従来制)最低賃金が定められています。

[発効日]平成23年10月12日

必ずチェック最低賃金! 使用者も、労働者も

最低賃金制度とは、最低賃金法に基づき国が賃金の最低額を定め、使用者は、その最低賃金以上の賃金を支払わなければならないとする制度です。

ウェブで最低賃金をチェックできます **最低賃金制度** 検索

厚生労働省 ホームページアドレス <http://www.mhlw.go.jp/>

最低賃金に関する情報サイトアドレス <http://www.saiteichingin.info/>

厚生労働省

インターネットによる情報提供の窓口です
あなたは一人ではありません
あなたの方になる場所や人を一緒に探しましょう

「こころの耳」

働く人のメンタルヘルス・ポータルサイト
— 心の健康確保と自殺や過労死の予防 —

この扉を開けて解決の糸口をつかんでください
ご家族の方にもできることがあります
事業者や上司・同僚の方、産業医などの働く方を支援する方にも役立つ情報があります

働く方へ

- ・専門相談機関のご案内
- ・ストレス軽減ノウハウ
- ・こころの病気・売薬体験記
- ・ご存知ですか?うつ病
- ・救済制度(セーフティネット)

ご家族の方へ

- ・ご家族にできること
- ・専門相談機関のご案内
- ・遺されたご家族へ

事業者、上司・同僚の方へ

- ・事業者のための相談機関のご案内
- ・メンタルヘルスQ&A
- ・施策・法令などのご案内
- ・職場復帰ガイダンス

産業医等、支援する方へ

- ・e-ラーニング
- ・チェックリスト等のツール
- ・研修会等のイベント
- ・統計情報・調査結果

<http://kokoro.mhlw.go.jp/> **こころの耳** 検索

働く人の「こころの悩み」をメール相談はサイトトップ画面からご利用いただけます。
ご相談の前に注意事項をご覧ください。
メールは24時間受け付けしております。

働く人のメンタルヘルスポータルサイト「こころの耳」

お問い合わせ 社団法人日本産業カウンセラー協会 こころの健康ポータルサイト運営事務局
kokoro@counselor.or.jp メール相談のアドレスではありません。

厚生労働省